



「研修便り」は、高知市立学校教職員研修の成果・内容の共有、研究所から発信する情報の周知を目的として、発行していきます。



道徳教育研修会 「道徳の時間の指導の充実 ～教科化の趣旨を踏まえて～」

講師：畿央大学 島 恒生 教授 平成28年11月1日（火）実施

概要

道徳教育の要である道徳科の指導を充実させるための方策についての協議や研修を行い、道徳教育の一層の充実を図る。

「特別の教科 道徳」の目標 学習指導要領一部改正（H27.3.27告示）

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から（小：物事を）多面的・多角的に考え、人間としての生き方（小：自己の生き方）についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

《中教審答申「道徳に係る教育課題の改善について」（H26.10.21）で挙げられている課題》

- ▼ 発達の段階などを十分に踏まえず、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業になっている例がある
- ▼ 読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導が行われる例がある

これらを克服するような授業を！！

「読む道徳」から「考え、議論する道徳へ」

「一方的に伝える授業」から「考えさせる授業」への授業改善、主体的・対話的で「深い学びの学習過程」

《これから取り組んでいきたいこと》

- 道徳科の授業づくり
- 学校の教育活動全体で行う道徳教育と道徳科の時間とのつながり
 - ・ 「特別の教科 道徳」での指導と、教育活動全体で行う指導とがつながる、プラス志向の取組をする。
 - ・ 子どもたちに任せ、協力して取り組むことのできる活動の活性化を図る。
- チームとして取り組む体制づくりと力強い実行
 - ・ 教職員がチームとなり一枚岩となる。
 - ・ 校区のネットワークづくりをする。

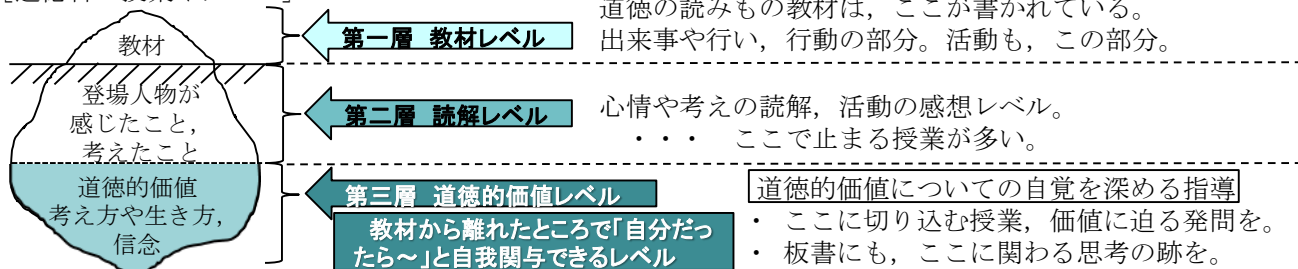
★道徳科の授業づくり★

- ① 道徳科の授業のイメージづくり（下図参照）
- ② 「問い」の自覚化
- ③ 発達の段階、内容の視点のおさえ
- ④ ねらいの書き方の明確化
- ⑤ 思考の場としての板書

「問い」がポイント！
「問い」が、子どもの
なかに立つ授業を！



〔道徳科の授業イメージ〕



道徳科の評価

- 児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について
 - ・ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか
 - ・ 多面的・多角的な思考のなかで、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点に注目して見取り、特に顕著と認められる具体的な状況を記述する
- 評価のための評価ではなく「児童生徒の成長を励ますための評価」
- evaluation(価値)ではなく、assessment(診断) 個人内評価

【受講者の感想】

- ・ 板書が第二層までになりがちなので、第三層までたどりつけるように計画をしっかり立てたい。読解レベルからの脱却を図りたい。
- ・ 中心発問によって授業の展開が大きく変わることが分かった。何をねらうかをしっかり考えた授業構成にしていきたい。

【全学級公開授業】

1年生：音楽、数学、技術・家庭

2年生：保健体育、国語、美術

3年生：英語、社会、理科

はるの2：国語



※ 研究の取組につきましては、「所報」10月号に詳しく掲載しております

「言語活動を取り入れた授業の在り方」

講師：東京女子体育大学 田中 洋一 教授

言語活動とは？

各教科の目標を達成するために有効な「手段」として
子どもに「深く考えさせる」ために設定する活動

アクティブ・ラーニングは
「言語活動を駆使した授業」と
本質的に変わらない概念



学習指導要領に示された言語活動

平成10年版に示された学力観
生きる力の育成

21世紀型学力

次期学習指導要領でも継続される方向

生きる力の3要素

- 基礎的・基本的な知識・技能
- 課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等
- 主体的に学習に取り組む態度

教育の手段

言語活動の充実
学習習慣の確立

「発信する」前に
「深く考える」活動
が大切

各教科で言語活動を実施するねらい

深く考える

考えたこと、
感じたことが
明確になる

交流で思考が
広がり、深まる

各教科固有
の目標を達成
する

各教科を
好きになる

自分の考えをもととすることで、主体的・能動的に授業と関わる

思考・判断の力と主体性を育てる授業づくり

授業の雰囲気	教師のもっている答えを子どもが探るのではなく、自由な発想を許容する雰囲気をつくる
課題設定	十分考えさせるのに適した課題、できるだけ多様な意見を許容できる課題を設定する
発問	子どもが自分の考えをもちやすい問い方をする
思考	一人で考える時間が活動を深める 協働学習により個人の思考を広げたり深めたりする
評価	子どもの方向性を評価する 途中経過も評価することで、子どもは意見を言うようになる
個別支援	課題のスタートラインに立っていない子どもを丁寧にみて個別に支援する

発問の例

【家庭科】 「わたしは〇〇」という
考えをもちやすい課題

「だれか一人、自分の大切な人の
ために献立を作ってみよう」

うちのお父さんには、
塩分を控えめにして…

【社会科】 教師と対等な立場で意見
を言うことができる課題

「先生は大河ドラマが好きなんだ
けど、みんなは徳川家康と豊臣秀吉
のどちらが当時の庶民に人気があっ
たと思う？」

刀狩は後から考えると…

【美術科】 自分のライフスタイルから
考えることができる課題

「示された名画の複製のなかから
一つを選び、日常のどのような場面
で楽しみたいか考えてみよう」

わたしは朝起きたときに…